

役

	CONI	=NIS	
ご挨拶・役員一覧	01	ポスターコンテスト審査会	20
定例総会•卒業作品展示会	02	会員校一覧	21
卒業作品 作品紹介(17校)	03~19	協賛	22

ご挨拶

2020年4月、新型コロナウイルス感染症拡大のため緊急事態宣言が発出され、例年とは異なる形で新年度がスタートいたしました。

新型コロナウイルス感染防止の観点と学生、教職員の健康と安全を優先して、例年開催しておりました「定例総会」は書面議決へ変更し、さらに「卒業作品展示会」は残念ながら中止といたしました。

緊急事態宣言が解除され、会員校においては感染防止対策に努め、様々な手法で学生たちの学びを止めない ために日々、建築教育に取り組んでおります。

コロナ禍の中、2018年より3年目となります卒業作品集・活動記録を通して、建築を学ぶ専門学校生の頑張り、 建築へのパッションや個性および本協議会の取り組みをご高閲頂けましたら幸いです。

建築を学ぶ専門学校生も個性色々、十人十色。会員校の特色もさまざまです。個性ある学生、特色ある専門学校が「withコロナ」、「afterコロナ」の新たな時代をつくり(創・造・作)、暮らしを守り、彩ることができる、次世代を担う人材育成に更に精進して参ります。

本協議会[全専建協]は、全国工業専門学校協会[全工専]の部会として、1995年に発足し、本年創立25周年の節目を迎えることができました。全国28校の会員校にて専門学校の建築教育の質の向上、教育内容の充実、併せて会員校や産業界との連帯や交流を図り、創立30周年(2025年)へ向けて、活動を推し進めて参ります。

最後になりましたが、本協議会へ多くの企業・団体様より格別のご支援ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。 今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

全国専門学校建築教育連絡協議会

会長 山野 大星

役員一覧 (2019・2020年度)

		1	设	職	名				氏	名		学 校 名
会		長						山野		大星	1	日本工学院八王子専門学校
副	会	長						松田		正之		中央工学校
								堤下		隆司	1	修成建設専門学校
幹	;	事		常信	壬幹	事		平上		秀明	r	中央工学校OSAKA
								宗林		功	7	大阪工業技術専門学校
								仁多	見	透	ž	新潟工科専門学校
								野村	9700	種明	J	東海工業専門学校金山校
								白井		雅哲	Ī	専門学校東京テクニカルカレッジ
				幹		事		湯浅		康生	F	岡山理科大学専門学校
								原	其	佐也	3	浅野工学専門学校
								今泉		清太	Į.	麻生建築&デザイン専門学校
								小川		貴之	1	読売理工医療福祉専門学校
								原	智	樹	9	筑波研究学園専門学校
								田中		卓	I	広島工業大学専門学校
								飯田		有登	E	町田・デザイン専門学校
								見邨		佳朗	1	修成建設専門学校
				事	務	局	(会長校)	清水		憲一	-	日本工学院八王子専門学校
監		事						三上		孝明	Ī	専門学校東京テク ニカルカレッジ
								新井		長秀	ī	青山製図専門学校
相	談	役						堀口		一秀	ı	中央工学校

■定例総会

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「書面議決」にて開催。 例年は、定例総会後に教育活動報告会、施設見学、情報交換会などを実施して、会員校同士の連携、交流を図っております。

≪直近10年間の定例総会開催校と実施写真≫

2019年度	中央工学校	2014年度	修成建設専門学校
2018年度	京都建築大学校	2013年度	新潟工科専門学校
2017年度	日本工学院八王子専門学校	2012年度	中央工学校OSAKA
2016年度	麻生建築&デザイン専門学校	2011年度	日本工学院専門学校
2015年度	専門学校東京テクニカルカレッジ	2010年度	東海工業専門学校金山校







■卒業作品展示会

2020年度[第20回/於:(一社)日本建築学会 建築会館ギャラリー]は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を中止。 毎年、個性溢れる卒業作品(パネル・模型)の展示や制作者、指導教員から作品説明会も開催しております。







YAMAKIYA LIVING

~ふるさとの景色をもう一度~

国際情報工科自動車大学校 建築CAD設計科 廣野 百音



原発事故から8年、今もなおふるさとに帰ることが出来ぬ人がいる。そして、ふるさとの景色を忘れることが出来ない人もいる。そんなふるさとへの想いを作品に込めることとした。

計画地は、福島県伊達郡川俣町山木屋地区、福島第一原発から40㎞の範囲に位置し、東日本大震災の原発事故後は避難地域として指定されていた場所だ。1年半前に帰還が可能となったが、戻ったのはわずかに以前の1/3程度の400名のみで、みな高齢者ばかりというのが現状だ。若い世代は様々な事情により帰ることが出来ないが、ふるさとへの想いは忘れることはなく、ふるさとの復興を願っている。そこで私は、山木屋の古くからの伝統である、田んぼに作るスケートリンクを軸に、帰還した町民、避難を続けている町民、そして観光客の集う場所を作り、復興へのきっかけとふるさとの景色を取り戻すため、YAMAKIYA LIVINGを提案する。LIVINGという空間は、ふと集まりたくなる場所、ふと行きたくなる場所だと私は考え、山木屋もたくさんの人で賑わう事を願いYAMAKIYA LIVINGとした。

冬にしか営業をしなかったスケートリンクを年間通して活用することで山木屋の魅力を増やし集客を考えた。季節の行事を行うことでまたYAMAKIYA LIVINGに来たい、久しぶりに帰りたいと思ってもらえるような場所にする為、自然豊かな四季の移り変わりを広大なリンクで表現したいと思った。そこで様々な体験や交流により創りあげたYAMAKIYA LIVINGがたくさんの人で賑わうことを願う。

Therapy of nature ~見つめ直す~

筑波研究学園専門学校 建築環境学科 建築設計デザインコース 柳町 龍哉、川崎 亜美、倉持 宏輔



現代の世の中は経済的な豊かさが重要視され、より便利で快適な生活が実現していますが、その反面「ストレス社会」とも言われています。ますます激しくなる競争社会、管理社会の中で現代人は多くのストレスを抱えており、それが原因で「心の病」にかかる人が増えています。故に人々は常に癒しを求めていますが、なかなか心までは癒されないのが現状です。そこで癒しの空間を提案することで、様々な心の病の改善に繋がるのではないかと考えました。

【コンセプト】

国立公園として指定されている磐梯山一帯をデザインコンセプトとします。スタート地点の建物は山間から吹く風により五色沼の水面が揺れ動いているかのような屋根形状です。

ゴール地点の建物は山があり、森を抜けると山麓に村がある。そういった山岳地域の風景が一つの自然の流れになっているデザインや配置計画です。

この 2 か所の建物の外壁はそのほとんどがガラス張りとなっているため、建物を介して常に周囲の自然が作り出 す四季折々の風景を見渡せます。

央





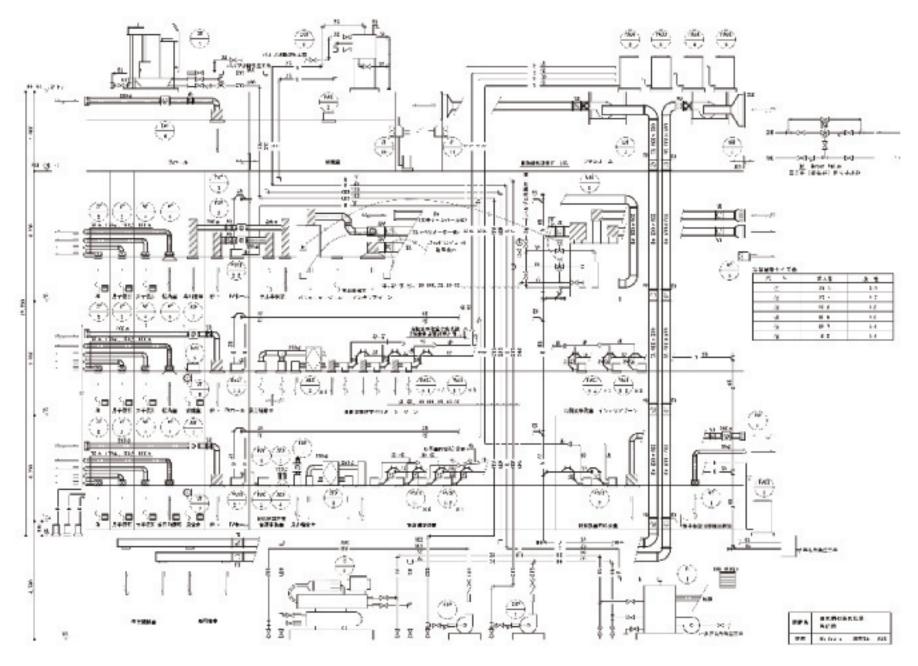


人工知能の発達により10~20年後には今の仕事の半分以上がコンピューターに置き換わるといわれている中で、人と人とがつながることで生まれる「クリエイティブ」な仕事は、今後も失われずに残すべきだと考える。モノづくりの街として、若手クリエイター支援に力を入れる台東区に、クリエイティブな「日常」を発信する美術館を提案する。敷地内にカフェや広場を設けることで、日常生活の中に自然と溶け込みながら、地域住民と若手クリエイターを自然と結び付け、伝統ある台東区のモノづくり文化を、更に盛り上げる「開かれた場」を構築したいと考えた。

神奈川ビル新築工事

中央工学校 建築設備設計科

後藤 忠俊



神奈川ビル新築工事

温暖化対策及び地域コミュニ ティの軽薄化が問題視されている 横浜市中区に、働きやすさをテー マとした事務所ビルを建築と設備 の両側面から計画・設計した。建 築設計においては、植栽による自 然を取り入れた公開空地を設置 し、地域住民との交流の場を形成 する。また、2階事務室の来客に対 して、動線短縮のため、1階に応接 室を設けた。設備設計において は、省エネを実現するために変風 量単一ダクト方式を採用し、使用 用途に合わせた風量調節で空調 効率を高めた。ビル用マルチェア コンは、換気設備として採用した 全熱交換器と併用することで空調 機が負担する負荷を軽減した。

义

専

門

学

校

いちょう団地

~異文化で繋がる~

青山製図専門学校 建築学部 建築設計デザイン科 小玉萌華







計画敷地は、神奈川県横浜市泉区の県営住宅『いちょう団地』。

近所に移民センターがあることから住民の約2割が海外にルーツがあり、その多くは言語に壁をを持ち、地域住民と 馴染めないことが問題となっていた。それらを解決するいちょう団地のリノベーションを計画する事にした。

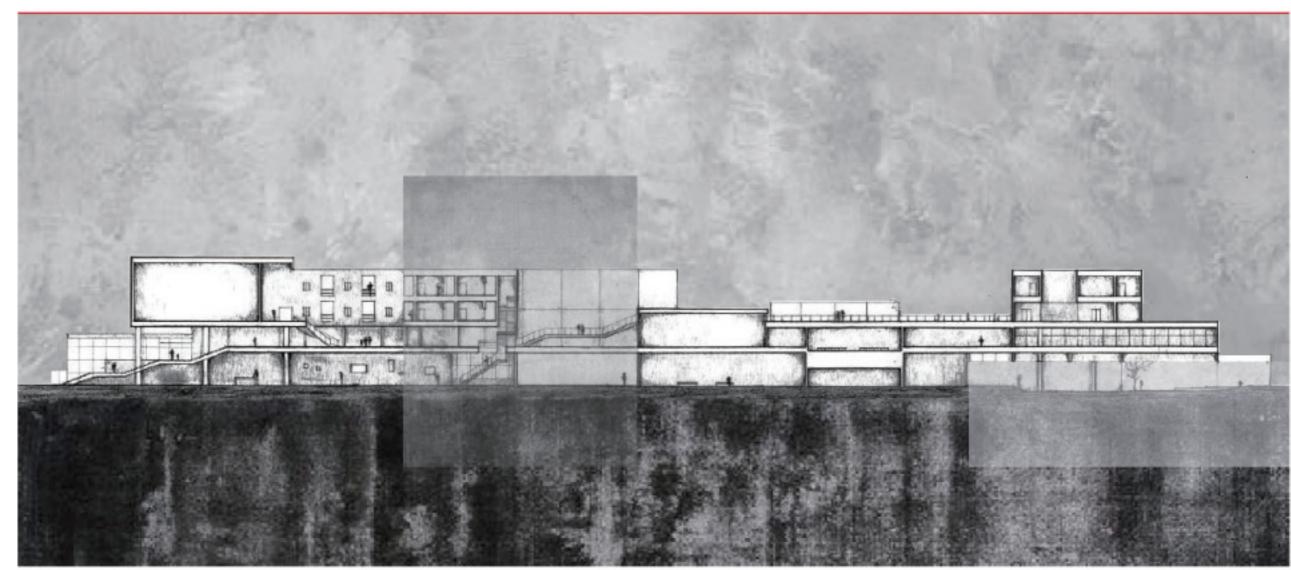
- ①階段室型の一般的な団地を片廊下型にし縦だけでなく横のつながりを生み出せるようにすること。
- ②既存の柱をそのまま、壁を「ずらす・つなぐ・ぬく」このパターンを利用し新たなスペースを作り、アクティビティを設けること。
- ③隣棟間隔を活かした新たなテラスを設けること。

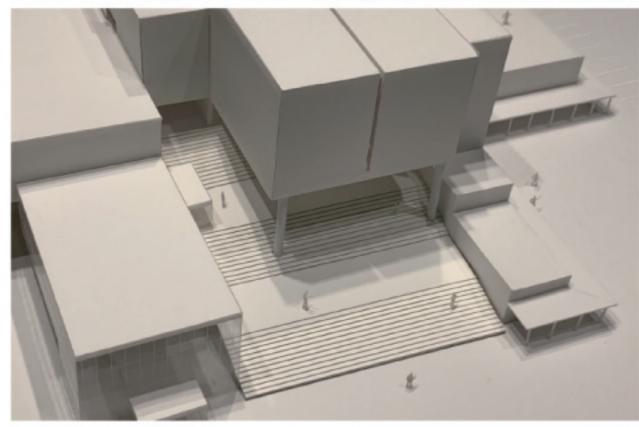
主にこの3つの計画を中心に既存の団地を活かしながら、母国料理を振る舞えるテナントや伝統的な技術を教えられる教室など、母国の色を出し合える環境を作ることで他国文化への興味や関心、互いの理解を深め合う空間を作り出す。

Repossession

「祝祭の器」としての都市建築

読売理工医療福祉専門学校 建築学科 高橋 侑里江







日本には冠婚葬祭と呼ばれる人生の節目に行う通過儀礼が存在する。

このような祝祭はかつて、主に家で行われていたが、時代による暮らし方の変化を経て、今日では専用式場を利用 するのが一般的である。

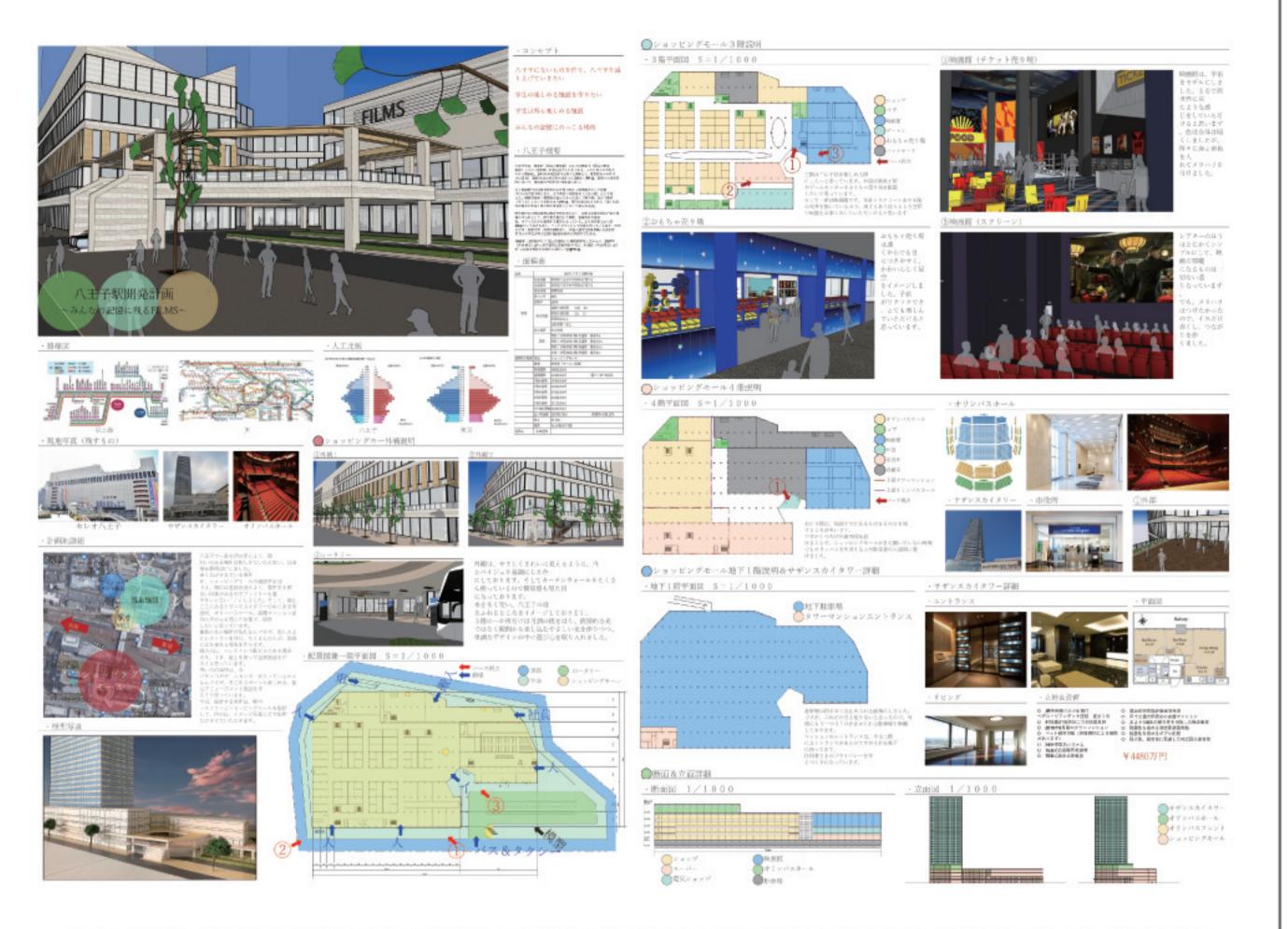
それは、各儀礼が日常的な行事の一つから、非日常的な事業として大々的に扱われる行事へと変化してきたといえる。それにより、葬祭場などは構築された固定概念がマイナスイメージを想起させ、住民の反対により建設される場も限定されてしまう。

そこで今回、現代における祝祭へのしがらみに着目し、これからの施設の在り方を提案する。この施設では祝祭という機能が憑依することで初めて空間としての役目を果たす。式が終わればまた、「器」としての姿に戻る。また施設には、アートを媒介に祝祭を都市の日常的儀礼と捉える、アーティストインレジデンスのプログラムを挿入した。ここで行われる祝祭が、アーティストの制作活動を通して、都市の日常に浸透していくことを願う。

八王子駅開発計画

~みんなの記憶に残るFILMS~

専門学校東京テクニカルカレッジ 建築科 中島 透哉



八王子市は、現在の東京23区の次に市政を施行した市であり、江戸時代には宿場町(八王子宿)、戦国時代には 軍事拠点としての城下町など歴史も古い。養蚕農家も多く絹織物産業も盛んであった。東京都心から40kmという 位置も助けベットタウンとしての機能、大学や短大、各種学校など多く学校を抱え、外国人留学生約3,100人を含む 約11万人が学ぶ全国有数の大学都市でもある。八王子駅前の商業施設のエリアや店舗数は多いが、南北での商店 街の分断や個人商店と大型施設の混在により利用時の不便さや求められている施設の不足などがあり、近年台頭 してきた立川駅周辺などに比べ魅力が低下している。

そこで、全世代に対して利用しやすい施設、求められている機能を一か所に集め、且つ、記憶に残り再度領したくなる施設を計画する。計画地は電車利用者を見込み、駅ナカや隣接施設の提案、車利用者に対する、隣接施設での動線確保などアクセス良い場所として、八王子駅を中心に選定した。幅広く提案を行うことでより魅力ある都市として発展の一助となるように建築的アプローチを行う。

校

佃の渡し

-佃島延長計画

日本工学院専門学校 建築学科 梶 隆晃



「江戸の町を東京の都市に残す」

佃(つくだ)

今も江戸情緒溢れる生活スケールを持つ町。 そのよさを残しつつ、開発する提案を行う。 [分断していた堤防]を越える壁を佃のスケールに沿って設置。この壁は町が川へと伸びていくことを支える基本となる。これは高い親水性とある程度のプライバシーの両方を確保してくれる。抽出された町の生活が空間的に展開する様に設計されている。 「町からはじまる開発の方法」

高層化する街、川を埋め立てる街。

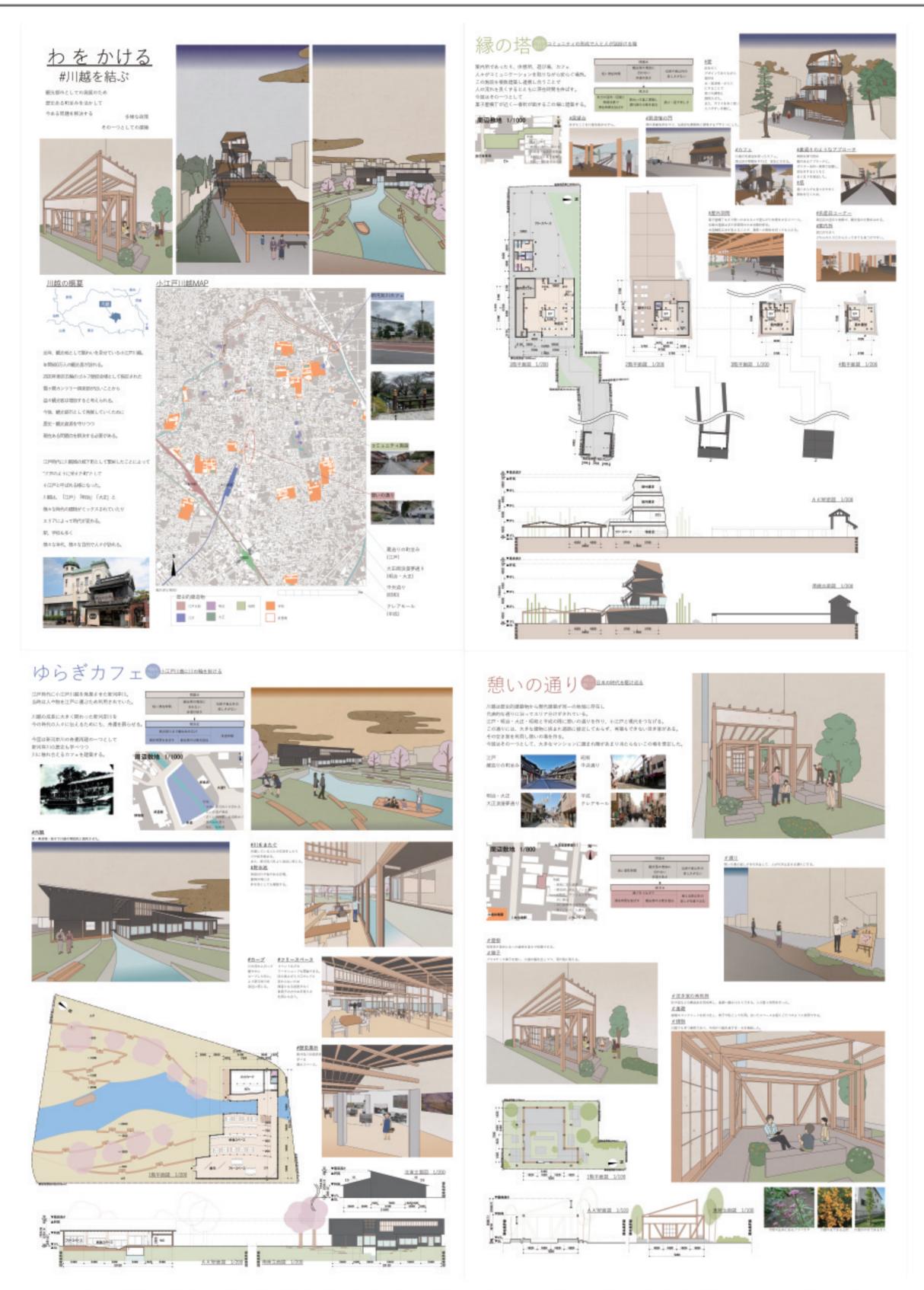
建てては壊し、人の居場所が考えられていない都市が 広がってきた。佃の町がこのままであり続ける為には、 この町で行われていたアクティビティ、暮らし、関わり を抽出し、建築空間で再構成した町を人工地盤に形成 する。緑を感じられる場、時間と歴史がこの先何十年も 存在する場。佃が成長し続けるきっかけとなる提案で ある。

校

わをかける

#川越を結ぶ

日本工学院八王子専門学校 建築学科 平 若菜

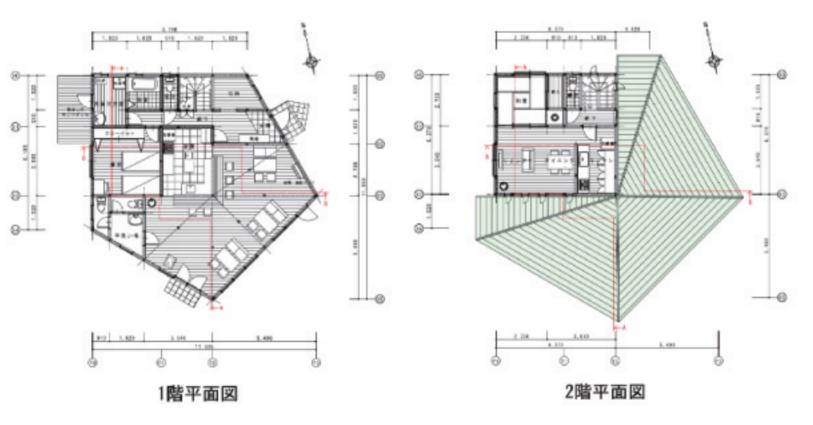


近年、観光地として賑わいを見せている小江戸川越。江戸時代に川越城の城下町として繁栄したことによって"江戸のように栄えた町"として小江戸と呼ばれるようになった。川越は、「江戸」「明治」「大正」と様々な時代の建物がミックスされており、めぐる場所によってエリアごとに時代が変わり、その場の持っている雰囲気も異なる。今後、観光都市として発展していくために、歴史・観光資源を守りつつ、現在ある問題点を解決する必要がある。時代/人/建築が混ざり合う川越の特徴をより活性化するための建築を提案する。

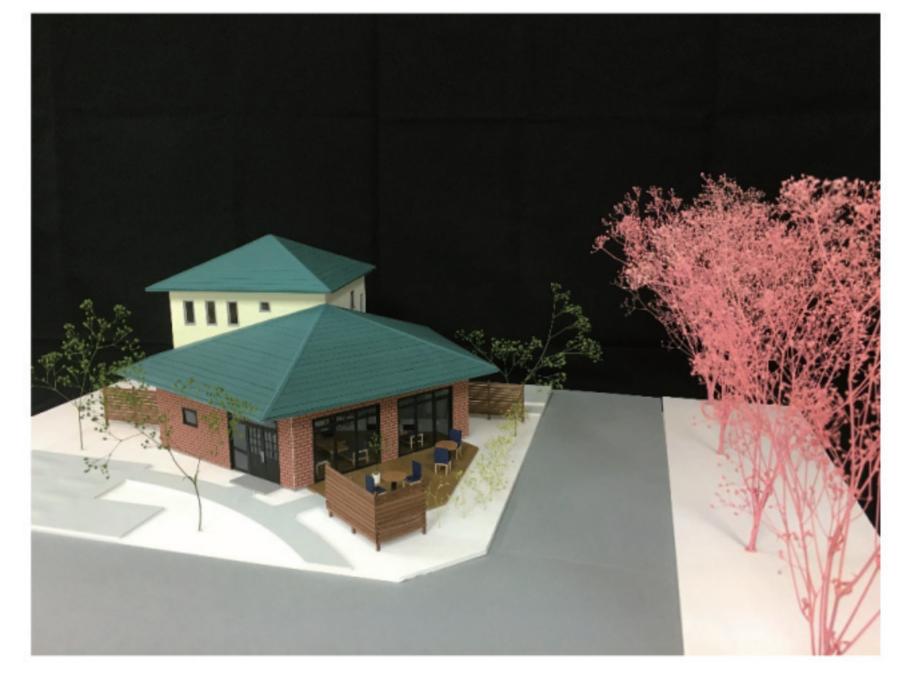
Cafe de Sakura

町田・デザイン専門学校 建築デザイン科 長岡 優人







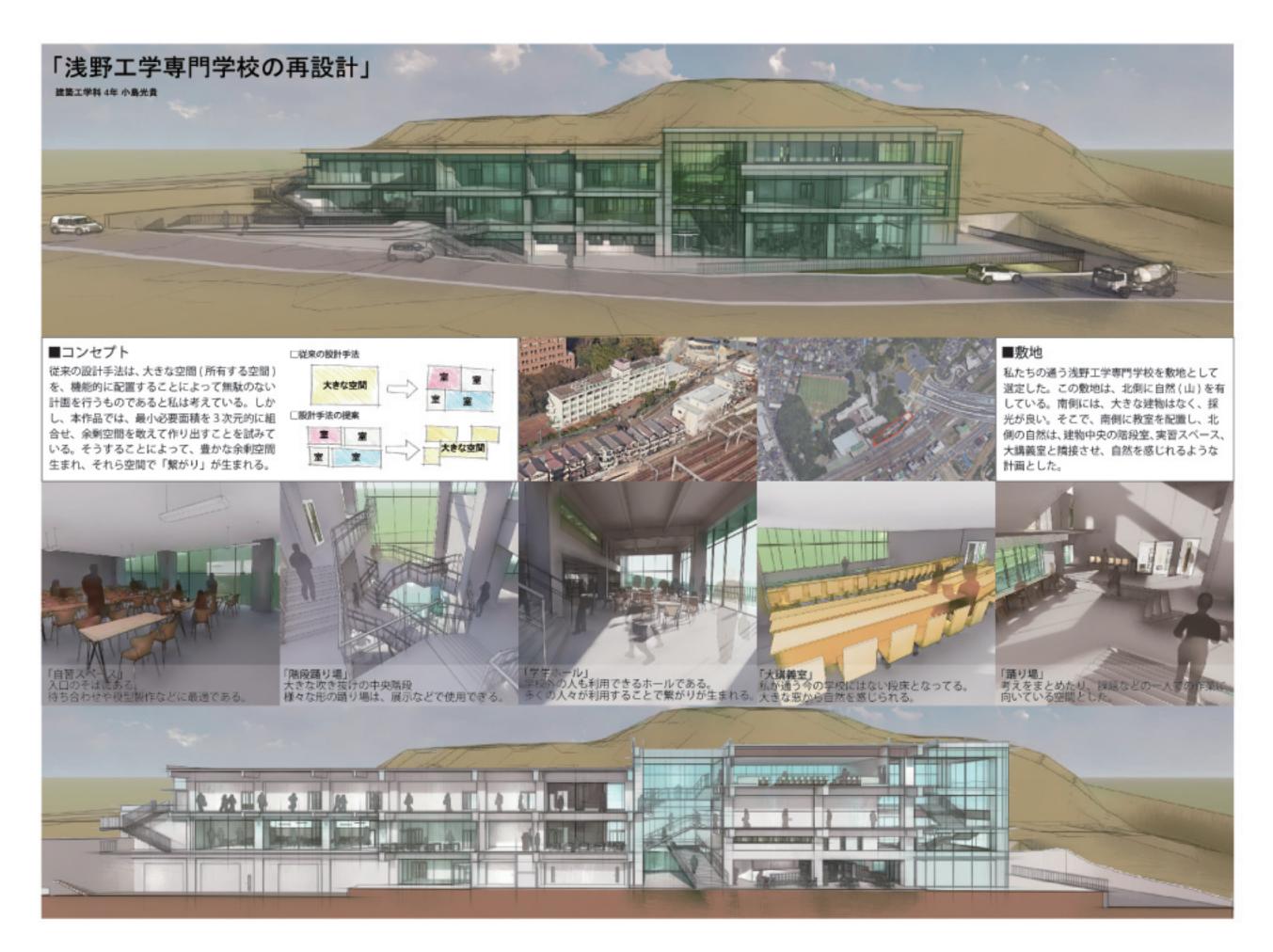






「浅野工学専門学校の再設計」

浅野工学専門学校 建築工学科 小島 光貴



私は、浅野工学専門学校の再設計を行った。テーマを「浅野工学専門学校の再設計」とした理由は、現在の学校は、とても合理的に設計されている一方で、学内での行動がパターン化されている側面があるのではないかと思ったからである。行動がパターン化された計画は、学生の思考性に影響し、学生の自由な発想の阻害してしまう側面があると、私は考える。

そこで、本作品では、余剰空間を敢えて計画することによって、学生間の「繋がり」を作り出すことを試みた。また、余剰空間を取り入れた構成は、学生間にとどまらず、地域住民が気軽に立ち寄り、交流を図ることのできる空間となるように計画している。本作品は、教育の場としての学校の域を超えた開放的で楽しい交流の場となる学校を提案したものである。

新潟に住む

~陽斜の家~

新潟工科専門学校 建築デザイン科 川上 慧



「新潟に住む」という設計課題に対し、長期間暮らすのに理想的な立地である新潟市中央区にこの住宅を計画した。新潟市でも商業や文化の中心になっているこの街で働く人々や学生達をターゲットにしている。ここで暮らす学生達には、就職してもこの建物に住み続けてもらうことで、なるべく生産年齢人口を県外などへ流出させない計画となっている。学生向けと社会人向けに4つずつ、合計で8つの個人用の住戸を設けている。学生達には全員同じ分野を学んでいる人達に、社会人には学生と同分野の卒業生に住んでもらう。学生は実際に働く先輩達の経験談などを聞くことで実社会の勉強が出来、社会人は会社では基本的に年上と接する機会が多いため、年下の世代と交流し、アドバイス等を与える存在となることができる。このように先輩と後輩が「ちょうどいい人間関係」を築く住空間を提案することでその分野の発展に寄与したいと考えた。

劇場型商店街計画

東海工業専門学校金山校 建築工学科 大石 隼也









島田商店街の再興計画を提案する。

かつて、町にはみのる座という芝居小屋があった。仲間たちとみのる座へ行き、行き帰りに商店街で買い物や食事をするなど、芝居小屋と商店街は深く結びついていた。

昭和から平成にかけて、人々の生活の変化し、商店街は寂れ、みのる座は閉館を迎えた。

シネマコンプレックス、スマートフォンを通して、どこでも同じ映画や芝居を楽しむことができるようになった。利便性を得て、世界は画一化した。

利便性を求める中で失われた地域の独自性の価値を改めて見つめ直す。

空き店舗を活用した劇場型商店街を提案する。

自治会館によって空き店舗の持ち主と利用者を結びつけ、開かれた劇場を玄関口として、観客を呼び込む。人々が行き交い商いをし生活をする中で積み重ねた商店街の歴史は、舞台美術や音響、照明効果がステージを劇空間たらしめるように、地域の独自性を活かした劇空間体験を作り上げる。

門学校

S邸室内設計 空間と時間と心象

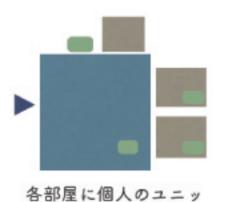
大阪工業技術専門学校 建築設計学科 関西 美喜子

台湾と日本の異なる住習慣を組み合わせて新しい生活のスタイルを提案をする。

玄関土間、借景+通り土間を作り住空間の内と外をつなげる中間領域を作り、暮らしやすい間取りと個々が好きになるような居場所をつくる。

台湾の集合住宅間取り例

パブリックスペース に入りやすく 家族の出入もわかり やすい。



トバスがある

日本の集合住宅間取り例



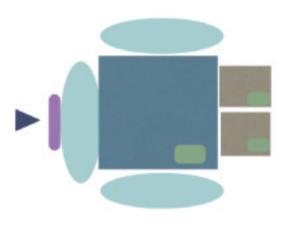
外部と内部がはっきり分 かれている

家族の出入がわかりにくい 部屋にこもりやすい



台湾間取りに玄関+土間を取り入れた新しい形

内のような外のような空間 「土間」を入れる事で セミパブリックスペースができる

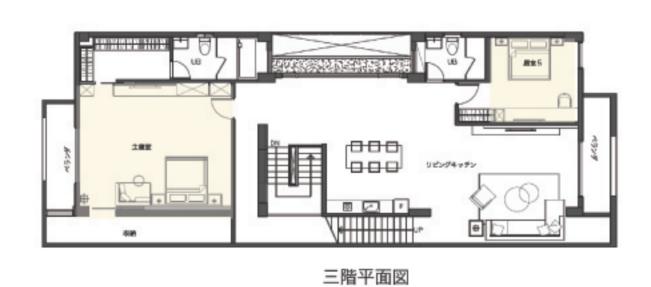


流れる動線が空間を広く感じさせる



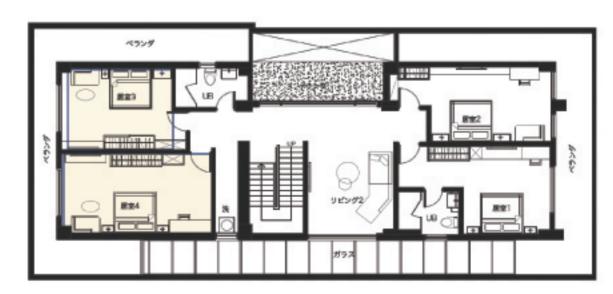












学

校

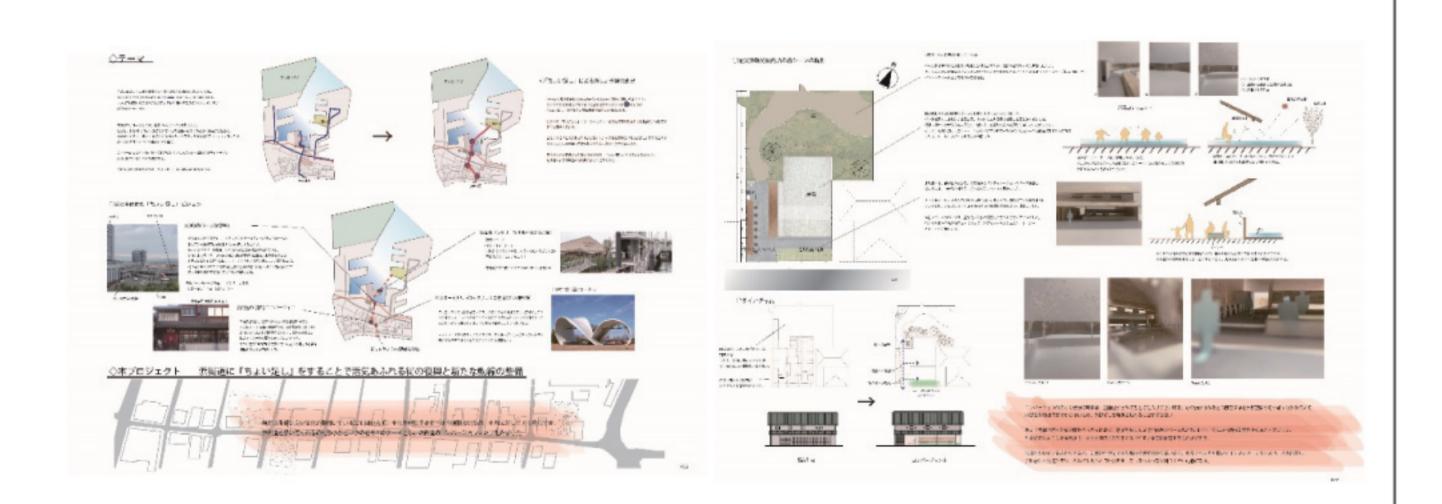
「ちょい足し。」

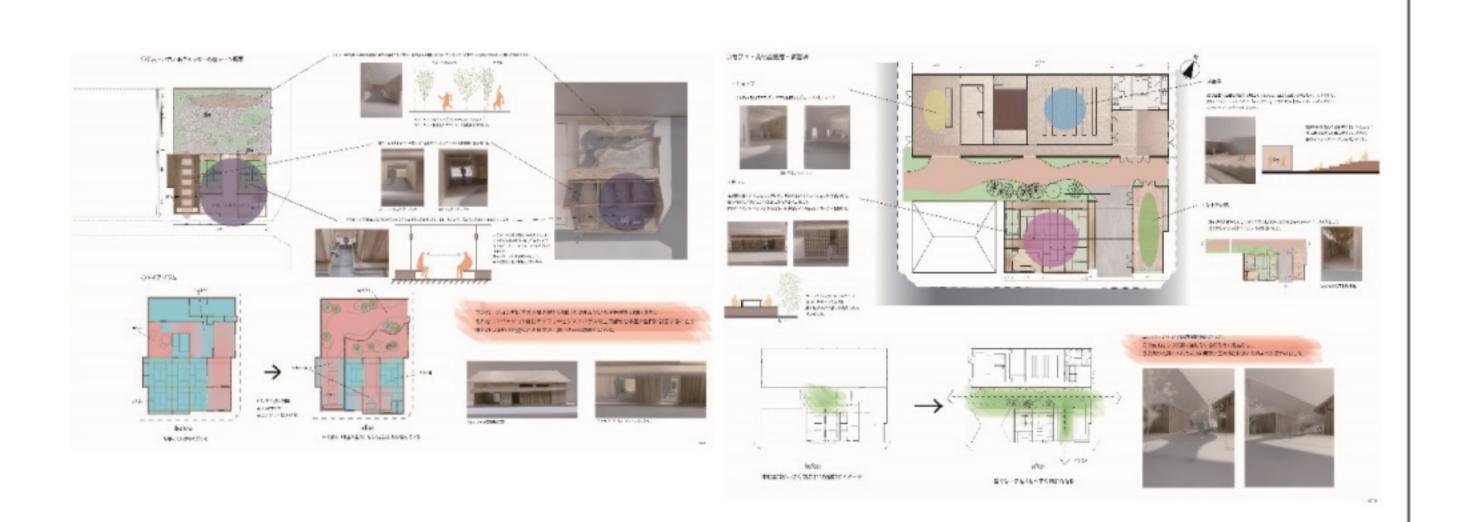
修成建設専門学校

建築学科 意匠設計コース

~点と点を線にする浜街道復興計画~

上森 彩加





私が住む街、泉大津市を舞台とした卒業設計です。家からみえる海やフェリー、毎日通る浜街道など魅力溢れるこの街は、多くの人が来たことがあっても魅力を感じることなく通過してしまう街だという事に気づきました。そこで、目的地までの通過点だった街を『ちょい足し』することで滞在できる街になればと思い、「歩いてみたい!!」と思えるような街を計画しました!元々存在するそれぞれの拠点を調査し、点と点を繋ぐように『ちょっとだけ』新たな要素を組み入れることで、泉大津市を訪れる人々が街の魅力に触れてもらえる計画としました。

校

商店街キャンパス ~学びが交わり、循環する一

中央工学校OSAKA 建築 C G デザイン科 C G クリエーターコース 前田 龍聖

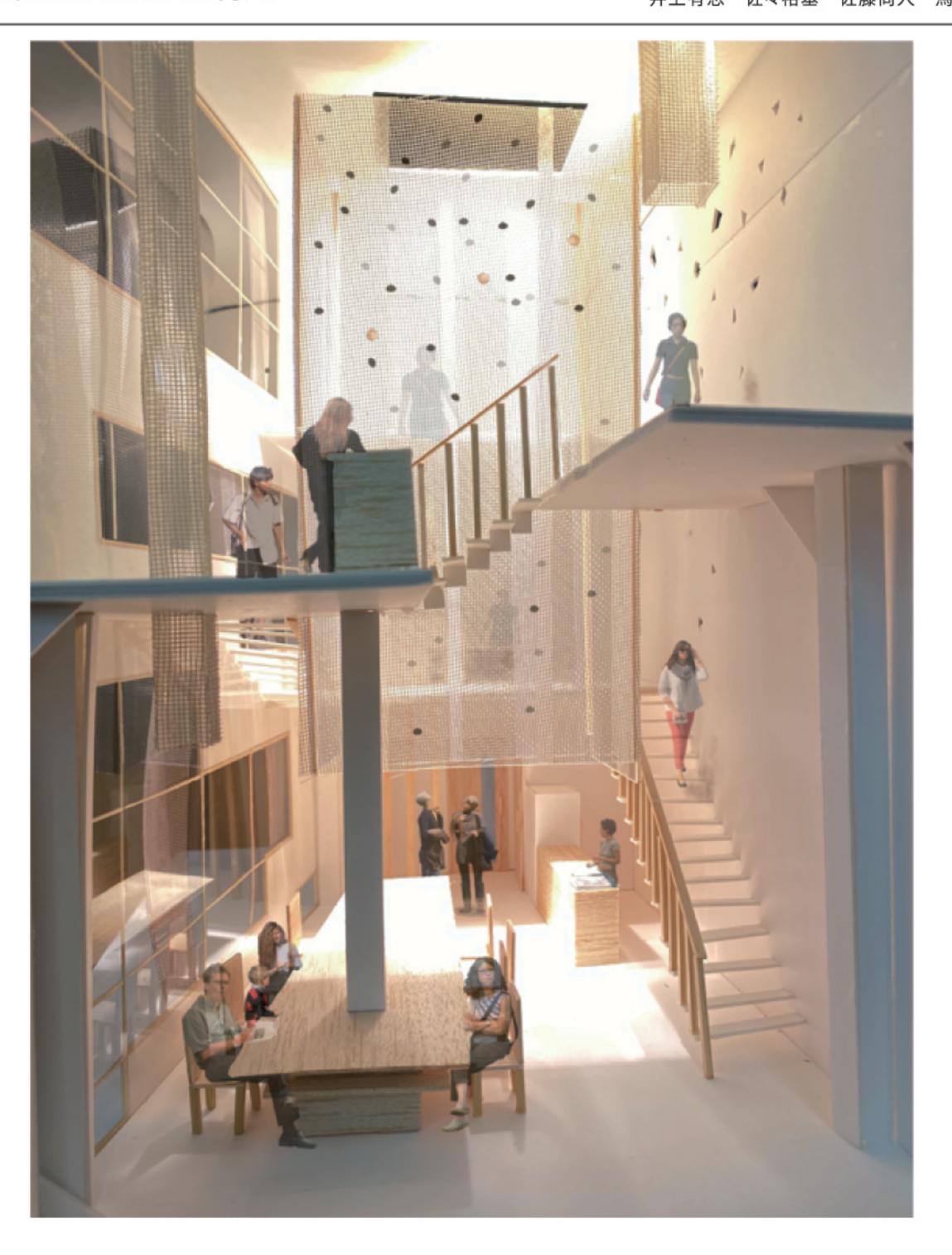


地域の小さな商店街は、店舗の老朽化や利用客減少による空き店舗の増加など多くの問題を抱えています。私 は商店街に学びの要素を加えることでこれらの問題の解決を図りました。学生は地域住民や商店街で商売をする 人に専門的なことを教わり、時には学生が先生となってスマホや SNS の使い方など最近の流行や役立つ知識を 教える。地域の人々は趣味などについて教えあい、学生と共に商店街の人々から学ぶ。さらに、商店街、地域、 学校の三者が知恵を出しあって学園祭などのイベントに参加をするなど、商店街キャンパスは、商店街・地域・ 学校が「学び」で交わりあい、三者の結びつきを強く感じることのできる空間です。このようにつながりを感じ られる空間やシステムにより人々が商店街に愛着を持ち、未来の世代にまで受け継がれてゆく商店街となるで しょう。

結いっとる

~漁業のまち日生の再生~

岡山理科大学専門学校 建築学科 専攻科 井上有志 佐々裕基 佐藤尚人 馬場祐輝



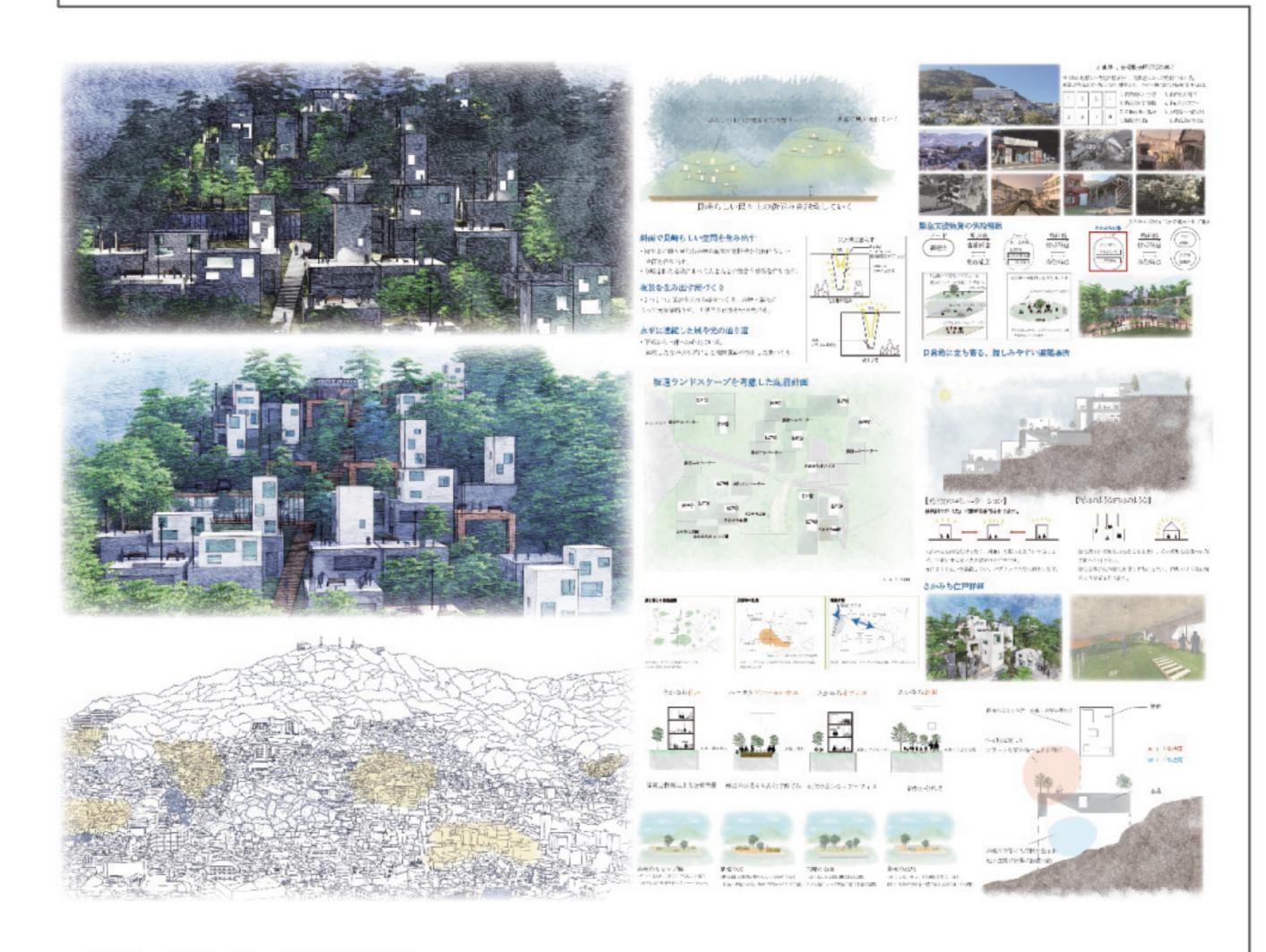
備前市日生にある空き店舗のリノベーション提案

日生。日の出の景観が美しい場所で、「日をなす」が日生の名前の由来といわれています。そこで、この由来のように日が美しく入り込む建物としました。既存の階の一部を減築してスキップフロアにすることで空間を一体化し、壁面から入るきらめく光と牡蠣いかだをモチーフとしたトップライトで海の中に包まれた空間をイメージさせます。事業計画は、それぞれのスキップフロアに一坪程度の小さな店舗のスペースを貸し出し、アンテナショップ、チャレンジショップや地域の人が気軽に出店できるフリーマーケットなどを開きます。それを短期間で入れ替えることで特別感と飽きがこない場所とします。また、1階を無料休憩所とし、近辺のカキオコ人気店などの待合所、また地域の人々のコミュニティーの中心的な場所となることが期待されます。

この風景をいつまでも

~斜面地ライトスケープの提案~

麻生建築&デザイン専門学校 建築士専攻科 大学併修コース 石橋 淳史



世界三大夜景を有する長崎の夜景。

斜面地が作り出す住居の光の集まりによって、偶発的に夜景が生み出されてきた。 しかし近年、高齢化・人口減少により、街の光が1つ、また1つと減少している。

この地に多様なエレメントによって、ライトスケープを考慮した住宅群を提案する。 斜面地に対し、基壇・ボックス型の住居を1ユニットとした計画を行う。 街の街灯を住宅内へ引き込み、生まれた光の中間領域は、住民同士のコミュニティーの場として機能する。 また、立体的に操作された光のグラデーションは各住戸の光を増幅させ、サスティナブルな夜景を作り出す。

ー 街の夜景に内在する文化、歴史、伝統が後世へと継承されることを願って ー

第20回 ポスターコンテスト審査会

「第20回 専門学校卒業作品展示会」のポスターコンテスト審査会 開催報告

今回は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、一堂に会しての審査会を中止して、全応募作品、投票用紙を 各校へ案内、審査を2020年3月実施。

■応募作品数&応募校

109作品

新潟工科専門学校、青山製図専門学校、専門学校東京テクニカルカレッジ、中央工学校、 東海工業専門学校金山校、日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校 (応募順)

■審査員

10校、教員27名

■審査結果·受賞作品一覧



最優秀賞

木村 拓哉 さん (日本工学院専門学校)



優秀賞 城田 晴哉 さん (青山製図専門学校)



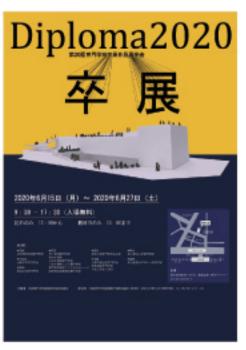
優秀賞 呉屋 慎二郎 さん (青山製図専門学校)



入賞 塩野 春香 さん (新潟エ科専門学校)



入 賞 上 原 穣 さん (日本工学院八王子専門学校)



入賞 武藤 北斗 さん (日本工学院専門学校)



入 賞
平井 一樹 さん (日本工学院八王子専門学校)

会員校一覧

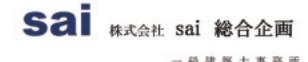
学校名		所在地
日本工学院北海道専門学校	〒059-8601	北海道登別市札内町184-3
国際情報工科自動車大学校	〒963-8811	福島県郡山市方八町2-4-15
筑波研究学園専門学校	〒300-0811	茨城県土浦市上高津1601
中央工学校	〒114-8543	東京都北区王子本町1-26-17
青山製図専門学校	〒150-0032	東京都渋谷区鶯谷町7-9
読売理工医療福祉専門学校	〒112-0002	東京都文京区小石川1-1-1
専門学校東京テクニカルカレッジ	〒164-8787	東京都中野区東中野4-2-3
東京工学院専門学校	〒184-8543	東京都小金井市前原町5-1-29
町田・デザイン専門学校	〒194-0022	東京都町田市森野1-27-18
日本工学院専門学校	〒144-8655	東京都大田区西蒲田5-23-22
日本工学院八王子専門学校	〒192-0983	東京都八王子市片倉町1404-1
浅野工学専門学校	〒221-0012	神奈川県横浜市神奈川区子安台1-3-1
新潟工科専門学校	〒950-0932	新潟県新潟市中央区長潟2-1-4
伝統文化と環境福祉の専門学校	〒952-1209	新潟県佐渡市千種丙202-1
日本建築専門学校	〒418-0103	静岡県富士宮市上井出2730-5
東海工業専門学校金山校	〒460-0022	愛知県名古屋市中区金山2-7-19
京都建築大学校	〒622-0041	京都府南丹市園部町二本松1-17
大阪工業技術専門学校	〒530-0043	大阪府大阪市北区天満1-8-24
大阪建設専門学校	〒530-0052	大阪府大阪市北区南扇町3-16
修成建設専門学校	〒555-0032	大阪府大阪市西淀川区大和田5-19-30
中央工学校OSAKA	〒561-0872	大阪府豊中市寺内1-1-43
日本工科大学校	〒672-8001	兵庫県姫路市兼田383-22
岡山科学技術専門学校	〒700-0032	岡山県岡山市北区昭和町8-10
岡山理科大学専門学校	〒700-0003	岡山県岡山市北区半田町8-3
広島工業大学専門学校	= 733-8533	広島県広島市西区福島町2-1-1
麻生建築&デザイン専門学校	〒812-0016	福岡県福岡市博多区博多駅南1-11-13
福岡建設専門学校	〒811-0053	福岡県福岡市東区箱崎6-15-34
専修学校サイ・テク・カレッジ	〒904-0115	沖縄県北谷町美浜1-5-16

協賛

企業・団体名		所在地
エーアンドエー(株)	〒101-0062	千代田区神田駿河台2-3-15
(株)sai 総合企画	〒101-0062	千代田区神田駿河台1-7-7 白揚第二ビル3階
菊池建設(株)	〒188-0001	西東京市谷戸町3-17-6
技研施工(株)	〒107-0062	港区南青山7-3-1
工藤建設(株)	〒225-0003	横浜市青葉区新石川4-33-10
(株)久米設計	〒135-8567	江東区潮見2-1-22
(株)国際総合計画	〒950-0916	新潟市中央区米山2-7-3 ITPケヤキビル 5階
三友建設(株)	〒192-0041	八王子市中野上町4-39-2
清水建設(株)	〒104-8370	中央区京橋二丁目16-1
(公財)住宅リフォーム・紛争処理支援センター	〒102-0073	千代田区九段北4-1-7 九段センタービル3階
(公社)商業施設技術団体連合会	〒108-0014	港区芝5-26-20 建築会館4階
住友不動産(株)	〒163-0819	新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル
成友興業㈱	〒197-0802	あきる野市草花1141-1
積水ハウス(株)	〒531-0076	大阪市北区大淀中1-1-88 梅田スカイビル タワーイースト
(一社)全国建築CAD連盟	= 461-0008	名古屋市東区武平町5-1 名古屋栄ビルディング7階
㈱総合資格	〒163-0557	新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル3階
大豊建設(株)	〒104-8289	中央区新川1-24-4
㈱大米建設	〒901-0145	那覇市高良3-1-1
TAC(株)	〒101-8383	千代田区神田三崎町3-2-18 TAC本社ビル4階
TTC(株) タケダ事業本部	〒132-0034	江戸川区小松川3-4-1 エクセルビル 3 階
徳倉建設(株)	〒460-8615	名古屋市中区錦3-13-5
中野建設(株)	〒105-0014	港区芝3-42-9 中野第一ビル
西尾レントオール(株)	〒542-0083	大阪市中央区東心斎橋1-11-17
(株)ニチボウ	〒141-0022	品川区東五反田1-9-5
(公社)日本建築積算協会	〒105-0014	港区芝3-16-12 サンライズ三田ビル 3階
(株)本間組	〒951-8650	新潟市中央区西湊町通三ノ町3300-3
馬淵建設(株)	〒232-8858	横浜市南区花之木町2-26
(一社)マンションリフォーム推進協議会	〒102-0083	千代田区麹町4-3-4 宮ビル8階
武藤工業(株)	〒154-8560	世田谷区池尻3-1-3
明治商工(株)	〒143-0006	大田区平和島6-1-1 東京流通センター センタービル 3階
(株)ヤマダホームズ	〒370-0841	高崎市栄町1-1
リコージャパン(株)	〒104-0045	中央区築地5-6-10 浜離宮パークサイドプレイス4階
リビングデザインセンターOZONE	〒163-1062	新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー3~7階

五 十 音 順

A&A





○ 技研施工株式会社











公益財団法人 住宅リフォーム・紛争処理支援センター

公益社団法人商業施設技術団体連合会



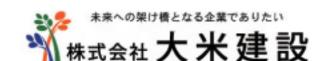














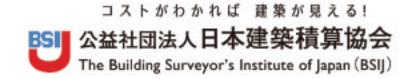




























発行日 発行元 2 0 2 0 年 8 月 2 0 日 全国専門学校建築教育連絡協議会 http://zensenkenkyo.jp/

事務局 日本工学院八王子専門学校 〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1 TEL:042-637-3111(代) FAX:042-637-3112